



発行 大阪乾癬患者友の会(梯の会)
編集 友の会編集委員

特集

乾癬学習懇談会in奈良 その2



・・・ Index ・・・

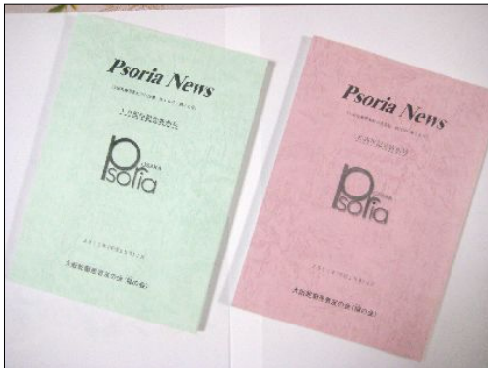
- ・10周年記念誌発刊 P1
- ・新薬承認 P2
- ・第22回学習懇談会医療講演より
小林信彦先生
- 「乾癬どんな病気？」 P2
- ・「女性の会」の集い
案内 P21
- ・お知らせなど P22

10周年記念誌を発刊

大阪乾癬患者会(梯の会)は一九九八年(平成十年)十二月七日に会員数四十五名で発足し、二〇〇八年(平成二十年)には会創立十周年を迎えました。この程それを記念して、十周年記念誌を発刊する運びとなりました。創立五周年の時にも記念誌を発刊し、会報「プソリアニュース(Psoria News)」の創刊号から十八号までの縮刷版を掲載しました。

今回十周年を記念して、縮刷版第二号を刊行することになり、「プソリアニュース」の十九号から四十二号までを掲載しました。巻頭には岡田会長の挨拶、また相談医の東山真里先生(日生病院皮膚科部長)、吉川邦彦先生(大阪大学名誉教授：顧問)、片山一朗先生(大阪大学大学院医学系研究科教授)、吉良正治先生(大阪大学大学院医学系研究科講師)、川原繁先生(近畿大学医学部皮膚科准教授)の各先生方にお言葉を賜り、また全国の各乾癬患者会の相談医である小林仁先生

(小林皮膚科クリニック院長：乾癬の会(北海道 相談医)、江藤隆史先生(東京通信病院皮膚科部長：東京地区乾癬患者友の会 (P-PAT) 相談医)、谷口芳記先生(四日市市市立四日市病院皮膚科部長：三重県乾癬の会相談医)、安倍正敏先生(群馬大学大学院医学系研究科：群馬乾癬友の会「からっ風の会」相談医)からもメッセージを頂きました。また先般発足した日本乾癬患者連合会(JPA)会長の佐々木様からもお祝いの言葉を頂きました。今後も皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



10周年記念誌(左) と5周年記念誌(右)

生物学的製剤2種が新薬として承認

「乾癬」の新薬2種を承認
皮膚表面がフケのようにはがれ落ちる難治性皮膚病「乾癬かんせん」に対する2種類の新薬が今月20日、承認された。この病気は、全身の皮膚表面にかさかさとした薄い皮ができてはがれ、その下の皮膚が炎症で赤く腫れるのが主症状で、かゆみを伴うこともある。推定患者数は約10万人。ステロイド(副腎皮質ホルモン)の塗り薬や紫外線照射などで治療するが、再発することが多く、根治は難しい。今回、承認されたのは点滴薬のレミケード(商品名)、皮下注射薬のヒュミラ(同)。両薬とも、炎症に係る物質の働きを抑えることで乾癬の症状を改善する。「生物学的製剤」と呼ばれる新しい種類の薬で、既に関節リウマチの薬として認められていたが、乾癬への効果も認められた。レミケードは最初の6週間に3回、その後は、8週間(約2か月)間隔で点滴治療を行う。一方、ヒュミラは2週間間隔で皮下注射する。新薬の早期承認を厚生労働省に陳情してきた東京地区乾癬患者友の会副会長の阿高一男さんは「病状が重かったり、関節が痛む型だったりした場合、治療が難しかった。新薬は、そのような患者にも効果があるので、承認はうれしい」と話している。(1月28日読売新聞記事より)